

# 琉球大学学術リポジトリ

## 専門科目学習サポートルームを実施して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): 学習サポートルーム, 実習補助, 演習補助 キーワード (En): 作成者: 浦崎, 直光 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/48502">http://hdl.handle.net/20.500.12000/48502</a>

# 専門科目学習サポートルームを実施して

浦崎 直光

工学部工学科電気システム工学コース

## 要 旨

令和元年度大学教育改善等経費により、工学科電気システム工学コースならびに電子情報通信コースで実施した学習サポートルーム事業の成果について報告する。

## キーワード

学習サポートルーム、実習補助、演習補助

## 1 はじめに

工学科電気システム工学コースならびに電子情報通信コース（以下、電気電子系コース）は、1、2年次のカリキュラムが共通となっており、大半の必修科目は90名程度の受講生がいる。これらの科目の内容は、多くの専門科目の基礎となっているため、理解が十分でない場合、その後に履修する専門科目の修得に大きな支障をきたす。そのため、電気電子系コースでは、主要な必修科目については、2コマの時間を設定し、演習時間を確保している。しかしながら、受講生が多いため、正規の時間内に全ての受講生の演習を個別指導することは困難な状況にある。また、時間割の制約上、2コマの時間を設定できず正規の授業時間内で演習時間を確保できない科目もある。さらに、初歩的なマイコン実習を行う科目については、授業時間外でのグループワークが必要となるため、技術相談員が必要である。このような授業時間外での学習サポートについては、ティーチングアシスタントでは対応できないため、大学教育改善等経費により大学院生を雇用し、学習支援を行った。

## 2 実施状況と成果

表1 は学習サポートルームを実施した科目一覧である。エンジニアリングデザイン基礎は、電気電子系に興味を持ってもらうために1年次に対して提供している初歩的な実習科目であるが、受講生の大半がマイコンを利用したことがないことから、学習支援が不可欠である。その他の科目は座学であり、単位取得率が低い科目を優先して選定している。

学習サポートルームの実施にあたっては、のべ8名の大学院生を雇用し、科目毎に設定した時間・教室において受講生からの質問や学習相談に対応した。

受講生にとっては、教員よりも大学院生のほうが気軽に質問しやすいということで好評である。また、大学院生にとっては、指導する立場を経験することで、本人の復習にもなり、その科目の内容をより理解できるといった利点がある。

表1 学習サポートルーム実施科目一覧

科目名	実施内容
エンジニアリングデザイン基礎	実習補助
回路理論Ⅱ	演習補助
回路理論Ⅲ	演習補助
電気回路基礎	演習補助
ベクトル解析	演習補助

一方、学習サポートルームの利用にあたっては受講生の意思に委ねられており、学習支援が必要と思われる学生に限って利用しないといった傾向がみられる。利用する学生にとっては大きなメリットとなっているが、授業時間外で実施することから、利用を義務化することができず、その成果が限定的である点が課題である。

### 3 まとめ

電気電子系コースで実施している専門科目の学習サポートルームの実施状況について報告した。本事業は、平成22年度から継続的に実施しており、必修科目の演習を重要視する電気電子系コースのカリキュラム方針において、重要な役割を果たしている。ただし、受講者の利用を義務化できないため、支援が必要と思われる受講生が十分に活用していない点が課題である。

末筆ながら、本事業を実施する上で予算的措置をしていただいたグローバル教育支援機構の関係各位に感謝申し上げます。